

作成日 平成 25 年 8 月 23 日
改訂日 令和 5 年 5 月 10 日

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ライトクリスタル L-KS300N
製品整理番号	BA124
供給者の会社名称	株式会社ウォーターエージェンシー
住 所	162-0813 東京都新宿区東五軒町 3 番 25 号
担当部門	ケミカルサービス事業本部
TEL	03-3267-4073
FAX	03-3267-4106
緊急連絡電話番号	同 上
推奨用途および使用上の制限	工業用消臭剤

2. 危険有害性の要約

化学品の GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体 自然発火性液体 上記以外の項目は、分類できないである。	区分に該当しない 区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性（経口） 急性毒性（経皮） 急性毒性（吸入） 皮膚腐食性／刺激性 眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性 呼吸器感作性 皮膚感作性 生殖細胞変異原性 発がん性 生殖毒性 特定標的臓器毒性（単回ばく露） 特定標的臓器毒性（反復ばく露） 誤えん有害性	区分に該当しない 区分に該当しない 分類できない 区分に該当しない 区分2 分類できない 区分1 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない 分類できない
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性) 水生環境有害性 長期(慢性) オゾン層への有害性	区分に該当しない 区分に該当しない 分類できない

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

警告
強い眼刺激
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

注意書き
〈安全対策〉

- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。
- ・煙／ミスト／蒸気の吸入を避けること。
- ・取扱い後は手をよく洗うこと。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

<応急措置>

- ・皮膚に付着した場合:多量の水で洗うこと。
- ・汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- ・皮膚刺激又は発疹が生じた場合:医師の診察/手当てを受けること。
- ・眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して
いて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く
場合、医師の診察/手当てを受けること。

<保管>

なし

<廃棄>

- ・内容物/容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託して廃棄すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物		
化学名又は一般名	①有機酸塩	②有機塩	③有機酸
	④防腐剤	⑤ベタイン	
化学物質を特定できる一般的な番号	①CAS No. 有り	②CAS No. 有り	③CAS No. 有り
	④CAS No. 有り	⑤CAS No. 有り	
化学式	①非開示	②非開示	③非開示
	④非開示	⑤非開示	
成分及び濃度又は濃度範囲	①有機酸塩 非開示	②有機塩 非開示	③有機酸 非開示
	④防腐剤 非開示	⑤ベタイン 非開示	
官報公示整理番号(化審法)	①化審法番号有り	②化審法番号有り	③化審法番号有り
	④化審法番号有り	⑤化審法番号有り	
(安衛法)	①公表化学物質	②公表化学物質	③公表化学物質
	④公表化学物質	⑤公表化学物質	

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、気分が悪い時は、医師に連絡する。
皮膚に付着した場合	多量の水で洗い、皮膚刺激が生じた場合は、医療処置を受ける。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗い、眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当てを受ける。
飲み込んだ場合	口をすすぎ、無理に吐かせない。気分が悪い時は医師に連絡する。
急性症状及び遅発性症状の 最も重要な徴候症状	知見なし。
応急措置をする者の保護に必要な 注意事項	特になし。
医師に対する特別な注意事項	特になし。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	一般的な消火剤(水、粉末、泡、二酸化炭素など)
使ってはならない消火剤	知見なし。
火災時の特有の危険有害性	知見なし。
特有の消火方法	周辺火災の場合は、速やかに容器ごと安全な場所へ移す。移動不可能な場合は 容器及び周辺に散水し冷却する。
消火活動を行う者の特別な保護具 及び予防措置	煙等の吸入を防ぐための適切な呼吸保護具等を着用する。また、保護衣を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	関係者以外の立ち入りを禁止し、適切な保護具を着用する。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境に影響を起こさないように留意する。
封じ込め及び浄化の方法	少量の場合:水で洗い流す。
及び機材	多量の場合:ウエス等でできるだけ回収した後、密閉容器に回収し、産業廃棄物として 廃棄する。残留物は水で洗い流す。
二次災害の防止策	知見なし。

皮膚腐食性／刺激性	分類できないに相当する成分と区分に該当しないに相当する成分を含むが、含有量に基づき分類 JIS で区分に該当しないとした。
眼に対する重篤な損傷性 ／眼刺激性	区分 1、区分 2 に相当する成分を含むが、含有量に基づき分類 JIS で区分 2 とした。
呼吸器感受性	データ不足のため分類できない。
皮膚感受性	区分 1 に相当する成分を 1.0%以上含有するため、分類 JIS で区分 1 とした。
生殖細胞変異原性	分類できないに相当する成分と区分に該当しないに相当する成分を含むが、含有量に基づき分類 JIS で分類できないとした。
発がん性	分類できないに相当する成分と区分に該当しないに相当する成分を含むが、含有量に基づき分類 JIS で分類できないとした。
生殖毒性	分類できないに相当する成分と区分に該当しないに相当する成分を含むが、含有量に基づき分類 JIS で分類できないとした。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	データ不足のため分類できない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	データ不足のため分類できない。
誤えん有害性	データ不足のため分類できない。
12. 環境影響情報	
生態毒性	
水生環境有害性 短期(急性)	区分 2、区分 3 に相当する成分を含むが、含有量に基づき分類 JIS で区分に該当しないとした。
水生環境有害性 長期(慢性)	分類できないに相当する成分と区分に該当しないに相当する成分を含むが、含有量に基づき分類 JIS で区分に該当しないとした。
残留性・分解性	データなし。
生体蓄積性	データなし。
土壤中の移動性	データなし。
オゾン層への有害性	成分がモントリオール議定書の附属書に列記されていないため、分類できないとした。
13. 廃棄上の注意	
化学品(残余廃棄物)、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合には、そこに委託して処理する。 関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
14. 輸送上の注意	
国際規制	非該当
国内規制	非該当
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	直射日光を避ける。粗暴に取り扱わない。 荷崩れ、落下などに注意する。容器が破損しないように注意する。 容器を投げない、落さないこと。容器の上に乗らないこと。 輸送作業は取扱い及び保管上の注意事項に留意して行う。
緊急時対応措置指針	なし
15. 適用法令	
労働安全衛生法	非該当
化学物質排出把握管理促進法	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当
消防法	非該当
危険物船舶運送及び貯蔵規則	非該当
航空法	非該当

16. その他の情報

・参考文献

JIS Z 7252 2019

事業者向け GHS 分類ガイドランス

GHS 国連文書改訂第 8 版

独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE) 化学物質情報総合システム(CHRIP)GHS 分類結果

・記載内容の取扱い

全ての資料や文献を調査した訳ではないため、情報洩れがあるかも知れません。また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じることがあります。

重要な決定等にご利用される場合は、試験によって確かめられる事をお薦めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、推奨用途上の通常的な取扱いを対象としたものなので、推奨用途から外れる特殊な取扱いの場合には、この点にご配慮をお願いします。

・問合せ先

担当部門 ケミカルサービス事業本部

電話番号 03-3267-4073 FAX 番号 03-3267-4106